

2025 年 9 月 29 日

企画展

北島敬三写真展 借りた場所、借りた時間

2025 年 11 月 29 日（土）－ 2026 年 1 月 18 日（日）

長野県立美術館 展示室 1・2・3

—北島敬三を「読み返す」



長野県 須坂市 2018 年 1 月 9 日 Courtesy of the artist ©KEIZO KITAJIMA

長野県立美術館では、長野県須坂市出身の写真家・北島敬三の写真展を開催します。本展では国内外で高い評価を受ける北島の、キャリア初期のスナップショットから近年の連作まで幅広く展示し、これまでの仕事を振り返ります。また作家自身の手で制作された旧作品のニュープリントや雑誌・写真集などの資料を通じて、その 50 年にわたる仕事の読み返しをおこないます。

長野県須坂市に生まれた北島は、1975年に東松照明、荒木経惟、深瀬昌久、細江英公、森山大道、横須賀功光らが講師を務めた「WORKSHOP 写真学校」への参加をきっかけに本格的に写真を始めました。翌年に同校が解散すると、森山らと自主運営ギャラリー「イメージショップ CAMP」を立ち上げ、初個展「BC ストリート・オキナワ」（新宿ニコンサロン、1976年）や、月1回の連続写真展として12回にわたって開催された「写真特急便 東京」（イメージショップ CAMP、1979年）、東京とコザ（現・沖縄市）を往復しながら隔月で開催された「写真特急便 沖縄」（同、1980年）などで精力的に作品を発表し、仮借なく被写体を捉えるそのスナップショットは森山をして「白昼の通り魔」[*1]と言わしめた一方で、『カメラ毎日』の編集長を務めた西井一夫からは「ストロボ一発」を多用するスタイルを批判されます[*2]。賛否を巻き起こしながらも、「写真特急便 東京」で日本写真協会新人賞を受賞（1981年）し、その賞金で滞在したニューヨークのストリートスナップをまとめた写真集『New York』（白夜書房）で第8回木村伊兵衛写真賞を受賞します。



TOKYO 1979 Courtesy of the artist ©KEIZO KITAJIMA



East Berlin 1989 Courtesy of the artist ©KEIZO KITAJIMA

その後も、冷戦構造の歪みが際立つ東西ベルリン、ワルシャワ、プラハ、ブダペスト、香港、ソウルといった都市を巡り、遭遇する人々の形姿を捉えた鮮烈なストリートスナップによって若くして評価を確立しました。しかし崩壊直前の旧ソビエト社会主義共和国連邦取材した1991年[*3]を前後して、変化を追い立てる時代の潮流に呼応するかのよう、突如、それまでのスナップショットを放棄。以降、試行錯誤を重ねるなかで、無微の人々を定点観測的に撮影する〈PORTRAITS〉や、東日本大震災の被災地域を含む、日本各地のマージナルな風景を記録し続ける〈UNTITLED RECORDS〉といった、近年のシリーズに連なるソリッドかつ思惟的な作風へと転向を果たします。

被写体や撮影スタイルの劇的な変遷を辿った北島は、同時に自身の仕事を読み返し、作品を再構成するという作業を繰り返してきました。本展では、北島のキャリアの中で2度、象徴的に現れるフレーズ「借りた場所、借りた時間」を手がかりに、写真家自身の手によるニュープリントや、重要な作品発表の場として機能した雑誌や写真集などの資料を通じて、その50年にわたる仕事の読み返しを試みます。

- *1 森山大道「白昼の通り魔 北島敬三」、北島敬三『写真特急便 [東京]』パロル舎、1980年。
- *2 無署名「ストロボ一発に問題」『カメラ毎日』1976年9月号、40頁。なお、後に北島の理解者となった西井は、雑誌や自身が企画する写真展等で北島を取り上げている。
- *3 ソ連での取材から16年を経て、現地で撮影された一連の写真を再構成した写真展「北島敬三「USSR 1991」」（銀座ニコンサロン、2007年）で第32回伊奈信男賞受賞。

▶見どころ

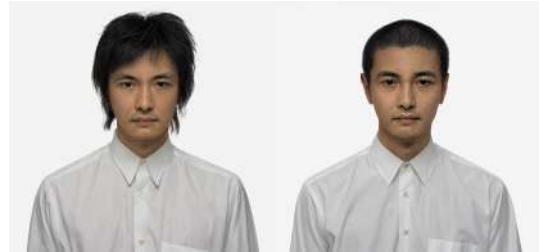
- (1) 日本写真協会新人賞（1981）、第8回木村伊兵衛写真賞（1983）、第32回伊奈信男賞（2007）、第41回土門拳賞（2022）等を受賞し、国内外で高い評価を受ける長野県須坂市出身の写真家・北島敬三の仕事を振り返る回顧展。
- (2) キャリア初期の「東京」「沖縄」「ニューヨーク」「東欧」「ソ連」などのスナップショットから、近年の連作〈PORTRAITS〉〈UNTITLED RECORDS〉までをも網羅する展覧会としては初の試み。
- (3) 本展のために作家自身が200点を上回る旧作のニュープリントを作成。50年におよぶ北島の集大成的展覧会を目指す。



ウラジオストク 1991年6月3日
Courtesy of the artist ©KEIZO KITAJIMA

▶展示構成

※以下は北島敬三の主な仕事を時系列順にまとめたものであり、必ずしも実際の展示順と一致するものではありません。



シリーズ〈PORTRAITS〉より Courtesy of the artist ©KEIZO KITAJIMA

PHOTO EXPRESS TOKYO 1979

北島は1979年の1年間にわたってイメージショップCAMPで月1回の連続写真展「写真特急便 東京」を開催。撮影と発表までの期間を極限まで圧縮した同展では、ハイコントラストな荒々しいプリントや、イプロヴィゼーション的にギャラリーの壁面いっぱい引き伸ばされたプリントが提示され、総じて高い熱量に裏打ちされた実験的な展示が展開された。

PHOTO EXPRESS KOZA 1975-

1975年に初めて沖縄を訪れた北島は、米軍基地に隣接する歓楽街として栄えたコザでの滞在を契機として本格的に写真の撮影を始め、嘉手納基地と市街地を結ぶ通りの名称を冠した初個展「B・C ストリート」（1976年）で実質的なデビューを果たす。しかしコザの写真に対して呈された一部の厳しい批判は、本土出身者として沖縄で撮影をする北島の自信を大きく揺るがせるものとなった。

NEW YORK

「写真特急便 東京」で日本写真協会新人賞を受賞した北島はその賞金で1981年の夏に渡米。ときに剥き出しの暴力と隣り合わせになりながらも、約9箇月のあいだに900本分のフィルムに相当する撮影を行う。カオティックな多文化の混淆の中で色濃く「生」が析出する一連のアンダーグラウンドな写真は、写真集『New York』（白夜書房）としてまとめられ、同作で第8回木村伊兵衛写真賞を受賞。

EASTERN EUROPE

写真集『New York』で木村伊兵衛写真賞を受賞した北島は、ニューヨーク滞在中から構想していた東欧での撮影を実行に移すため1983年に渡欧。西ベルリンを拠点に翌年まで東ベルリン、ウィーン、プラハ、ワルシャワ、ブダペスト、ベオグラード、ブカレストをはじめとする欧州各地を訪れた。路上で遭遇する人々の形姿を捉えたスナップショットはどこか重々しく、冷戦構造の歪みを写し出しているようである。

USSR 1991

1990年11月から翌年11月にかけての約150日間におよぶ『アサヒグラフ』の取材で連邦を構成する15の共和国を断続的に訪れた北島は、期せずして世界初の社会主義国の崩壊の過程を記録することとなる。1991年当時、すでにスナップショットの方法論から離れつつあった北島だが、あらゆる制約を排して撮影された〈USSR 1991〉は記録性と視覚性を兼ね備えた、スナップショット期の北島の集大成的連作となった。

A.D.1991

デビュー以来、北島が被写体を求めて渉猟した、コザやニューヨーク、東西ベルリンといった地は、翻せば東西冷戦の歪みを最も体現する空間でもあった。しかし東側陣営の盟主・ソ連の崩壊と奇しくも刊行の時期を同じくした写真集『A.D.1991』（河出書房新社）は、それまでのスナップショットに、90 年前後から北島が新たに取り組み始めた香港、ニューヨーク、東京といった都市の風景が加えられた異色の写真集となった。本作以降、北島は急速にスナップショットの方法論から遠ざかっていくこととなる。

PORTRAITS

白い背景に白い着衣の正面像。類型化された〈PORTRAITS〉の連作は、1992 年に最初の撮影が行われて以来、複数年にわたって（当初は 1 年に 1 枚ずつのペースで）同じ人物の肖像を撮影するプロジェクトとして企画された。無徴の人々の「肖像」によって肖像を解体し再構築する試みの中で、現在、2000 点を超える肖像のアーカイヴが構築されている。

UNTITLED RECORDS

『A.D.1991』の時点ですでに大判カメラによる国内外の都市風景に取り組んでいた北島だが、その関心は徐々に北海道から沖縄までの、国内のマージナルな風景へと移っていく。2000 年代前半から〈PLACES〉として撮影が続けられた「匿名」の風景のシリーズは、2011 年に発生した東日本大震災が契機となって〈UNTITLED RECORDS〉に改められ、以降、被災地域と被災地域以外の風景を分け隔てることなく等価なものとして記録する試みが現在まで続けられている。

▶作家略歴

北島 敬三 KITAJIMA Keizo

1954 年須坂市生まれ。大学を中退した 1975 年に「WORKSHOP 写真学校」森山大道教室に参加。同校解散後、新宿 2 丁目に森山らと自主運営ギャラリー「イメージショップ CAMP」を立ち上げる。70 年代後半からコザ、東京、ニューヨーク、東西ベルリン、プラハ、ブダペスト、ソウル、旧ソ連などで撮影したスナップショットを発表するも、1991 年に刊行された写真集『A.D.1991』を境に「風景」と「肖像」の連作へと大きく制作のスタイルを転換させる。写真家として中上健次や島田雅彦らと協働するほか、2001 年以降は岸幸太や笹岡啓子らと「photographers' gallery」の運営に携わる。主な写真集に『写真特急便 [東京]』（パロル舎）、『New York』（白夜書房）、『A.D.1991』（河出書房新社）、『THE JOY OF PORTRAITS』（Rat Hole Gallery）、『USSR 1991』（LITTLE BIG MAN）、『UNTITLED RECORDS』（BankART1929）、『NEW YORK』[新版]（PCT）、『USSR 1991』[新版]（PCT）等。写真集発表の傍らで『Kula』『photographers' gallery press』の発行を手がける。主な受賞歴に日本写真協会新人賞（1981）、第 8 回木村伊兵衛写真賞（1983）、第 32 回伊奈信男賞（2007）、第 41 回土門拳賞（2022）等。

【開催概要】

展覧会名：北島敬三写真展 借りた場所、借りた時間

会 期：2025 年 11 月 29 日（土）－ 2026 年 1 月 18 日（日）

会 場：長野県立美術館 展示室 1・2・3

開館時間：9:00－17:00（（展示室入場は 16：30 まで））

休 館 日：毎週水曜日、年末年始（12/28－1/3）

主 催：長野県、長野県立美術館

共 催：長野県教育委員会

協 賛：株式会社ニコン、株式会社ニコンイメージングジャパン

特別協力：photographers' gallery

助 成：一般財団法人地域創造

後 援：長野市、長野市教育委員会、須坂市、須坂市教育委員会、長野商工会議所、須坂商工会議所、善光寺、長野県芸術文化協会、長野県美術教育研究会、（公財）八十二文化財団、（公財）ながの観光コンベンションビューロー、JR 東日本 長野支社、信濃毎日新聞社、須坂新聞社、SBC 信越放送、NBS 長野放送、TSB テレビ信州、abn 長野朝日放送、FM 長野、INC 長野ケーブルテレビ、株式会社 Goolight

観 覧 料：一般 1,000（900）円、大学生及び 75 歳以上 800（700）円、高校生以下又は 18 歳未満無料

※コレクション展〔本館・東山魁夷館〕との共通料金：一般 1,500 円、大学生及び 75 歳以上 1,100 円

※（ ）内は 20 名以上の団体料金 ※割引の併用不可

※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方と付き添いの方 1 名は無料

※長野県内の大学等に通う学生は無料（詳細は当館ホームページ参照）



北海道 白老町 2018 年 2 月 10 日
Courtesy of the artist ©KEIZO KITAJIMA

【関連イベント】

(1) ギャラリートーク 北島敬三 × 松井正（長野県立美術館学芸員）

日時 | 11 月 29 日（土）14:00 ～

場所 | 長野県立美術館 展示室 1・2・3

(2) 関連トークイベント① 岸幸太（写真家）× 高橋しげみ（青森県立美術館学芸員）× 松井正

日時 | 11 月 29 日（土）15:00 ～

場所 | 長野県立美術館 本館 B1F ホール

(3) 関連トークイベント② 篠田優（写真家）× 松井正

日時 | 12 月 6 日（土）13:30 ～

場所 | 長野県立美術館 本館 B1F ホール

(4) 映画「カメラになった男—写真家 中平卓馬」スクリーニング & トーク

小原真史（監督・東京工芸大学准教授） × 北島敬三 × 松井正

日時 | 12月6日（土）18:30～

場所 | 長野相生座・ロキシー（長野県長野市権堂町 2255）

(5) 関連トークイベント③ 笹岡啓子（写真家） × 倉石信乃（明治大学教授） × 松井正

日時 | 12月7日（日）13:30～

場所 | 長野県立美術館 本館 B1F ホール

(6) 関連トークイベント④ 北島敬三 × 倉石信乃 × 高橋しげみ × 松井正

日時 | 2026年1月11日（日）13:30～

場所 | 長野県立美術館 本館 B1F ホール

※いずれのイベントも参加費無料（ただしギャラリートークにご参加の方は要観覧券）、事前申込不要。

【その他】

北島敬三写真展 借りた場所、借りた時間 関連展示：

岸幸太「彼の地、飛地」／笹岡啓子「The World After」「Park City」／篠田優「Voice(s)」

会期 | 2025年11月29日（土）— 2026年1月18日（日）

会場 | 長野県立美術館 本館 1F 交流スペース・オープンギャラリー

観覧無料

※本展につきましては、別途プレスリリースを配信予定です。

■報道関係のお問い合わせ

長野県立美術館 広報・マーケティング室 〒380-0801 長野市箱清水 1-4-4（善光寺東隣）

TEL：026-232-0052 FAX：026-232-0050 E-mail：nam-pr@naganobunka.or.jp

<別紙> 長野県立美術館 行 メール：nam-pr@naganobunka.or.jp FAX：026-232-0050

広報用画像申込書

「北島敬三写真展 借りた場所、借りた時間」

会期：2025 年 11 月 29 日（土）－ 2026 年 1 月 18 日（日）

■本展覧会の広報用写真を用意しております。ご希望の写真の左欄に○をつけて、メールまたはファックスにてお申し込みください。写真はデータにてお送りします。

○をつけてください		番号	画像名
	①	長野県 須坂市 2018 年 1 月 9 日	Courtesy of the artist ©KEIZO KITAJIMA
	②	TOKYO 1979	Courtesy of the artist ©KEIZO KITAJIMA
	③	East Berlin 1989	Courtesy of the artist ©KEIZO KITAJIMA
	④	ウラジオストク 1991 年 6 月 3 日	Courtesy of the artist ©KEIZO KITAJIMA
	⑤	シリーズ 〈PORTRAITS〉 より	Courtesy of the artist ©KEIZO KITAJIMA
	⑥	北海道 白老町 2018 年 2 月 10 日	Courtesy of the artist ©KEIZO KITAJIMA

●貴社についてお知らせください

貴社名	／媒体名（雑誌、番組名等）
ご担当者名	／所属部署
ご住所〒	
電 話	／FAX
E-mail	
ご掲載・放映の予定日があればお知らせください。 月 日（ ）に発行、または放映予定	

※掲載紙・誌を 1 部ご惠贈いただければ幸いです。

【広報用画像】 ※画像提供をご希望の場合は、別紙「広報用画像申込書」に必要事項をご記入のうえ、メール又はファックスにてお申し込みください。



①長野県 須坂市 2018 年 1 月 9 日
Courtesy of the artist ©KEIZO KITAJIMA



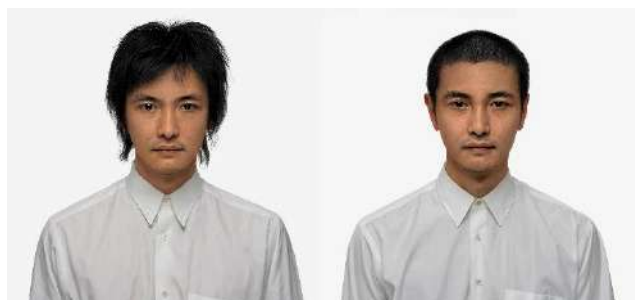
②TOKYO 1979
Courtesy of the artist ©KEIZO KITAJIMA



③East Berlin 1989
Courtesy of the artist ©KEIZO KITAJIMA



④ウラジオストク 1991 年 6 月 3 日
Courtesy of the artist ©KEIZO KITAJIMA



⑤シリーズ 〈PORTRAITS〉 より
Courtesy of the artist ©KEIZO KITAJIMA



⑥北海道 白老町 2018 年 2 月 10 日
Courtesy of the artist ©KEIZO KITAJIMA